

# 九州観光ビジネスプランコンテスト 2023

## 事業計画書

提出日 年 月 日

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                   |          |                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|----------|----------------|
| 学 校 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 西南女学院大学           |          |                |
| 学部・学科名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 人文学部・観光文化学科       |          |                |
| チ ャ ム 名<br>(個人参加の場合は任意)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 劉ゼミ               | エントリーNo. | 8              |
| <div>●●●●●●●●●●</div> <div>●●●●●●●●●●</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                   |          |                |
| 携帯電話番号                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | ●●● - ●●●● - ●●●● | E-mail   | ●●●●●●●●●●●●●● |
| <p>チームの紹介(任意項目)</p> <p>私たちは、ゼミ活動の中で地域貢献活動に力を入れて取り組み、北九州市のインバウンド観光振興を目指して韓国の学生とのオンライン交流会を行いました。また、実際に韓国へ短期留学をして異文化交流を行いました。学生生活を過ごした北九州市にスポットを当て4年間の集大成として今回のコンテストに参加します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                   |          |                |
| <p>1. 取り組みテーマについて(なぜこのテーマに取り組んだのか)</p> <p>・現状および課題認識</p> <p>ビジネスプラン名「北竹州 kitakeshu bamboo cycle」です。</p> <p>私たちはゼミ活動で行った小倉城竹あかりのボランティアを通して竹害について学び、竹害を竹財として観光資源に活用するというサイクル着目しました。</p> <p>たけのこの産地として有名な北九州市の合馬地区では、高齢化の進展、後継者や慢性的な人手不足により放置竹林の面積が拡大していることが課題です。そこで小倉城竹あかりでは、竹を竹灯籠にして、北九州市の秋の夜を彩るイベントを実施しています。</p> <p>また、北九州市へ観光に訪れる外国人観光客の割合として韓国人が最も多いため、韓国の学生をターゲットとしたオンライン交流会を行い、異文化交流会や国際交流を通して北九州市における韓国人のインバウンド観光に対するニーズ調査を行うことができました。</p> <p>私たちがこれまで取り組んできた韓国を対象にした北九州市のインバウンド観光振興活動と竹害に関する活動を掛け合わせることで、新たな観光資源を創造し、北九州市における竹財の活用とそこから派生するインバウンド観光振興が、竹害問題の解決に貢献できる循環を生み出すビジネスプランを立案します。</p> |                   |          |                |
| <p>2. 課題解決に向けた新たなアイデアについて</p> <p>北九州市の放置竹林は2016年時点で1,580ha、ミクニワールドスタジアム1,580個分です。</p> <p>「竹材から竹財へ」をテーマに、北九州市では2019年から毎年秋に小倉城竹あかりというイベントが実施されています。私たちは昨年このイベントにボランティアとして参加し、その際に竹灯籠の魅力や竹害問題に対する有用性を感じました。</p> <p>このことから、放置された竹材をただ焼却炉で燃やすだけではなく、新たな観光資源の開発と竹害問題を解決する循環型サイクルを作ることで、北九州市のインバウンド観光振興を目指します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                   |          |                |

課題解決のアイデアとして大きくわけて①竹材を使用したグッズを制作し、北九州市のお土産として販売②竹炭パウダーを使用した食品の開発・販売③学生による小倉城竹あかりを含めたニュートロツアーの3つを提案します。

私たちは、韓国の大学生とオンライン交流会を通して、韓国の若者たちの間で流行している"ニュートロ"という新しいことを意味する"ニュー"とどこか懐かしさを感じる"レトロ"という言葉を掛け合わせた韓国発祥の造語に着目し、北九州市のインバウンド観光客数が最も多い韓国人観光客をターゲットとしました。

そこで、小倉城竹あかりの取り組みや、北九州市の街並みが"ニュートロ"という世界観であると考え、小倉城竹あかりというイベントを通して、北九州市全体を盛り上げたいと考えています。

### 3. 九州や地域社会への影響について

・新たなアイデアが九州や地域に及ぼす効果(誘客、活性化等)はどうか。

"ニュートロ"のコンセプトを活用することで、小倉城竹あかりを通してインバウンド観光客、特に韓国を対象とした北九州市のインバウンド観光振興が促進され、「北九州＝ニュートロの街」というイメージを生み出すことができます。

さらに、北九州市で問題となっている「竹害問題」の解決に貢献する持続可能な観光資源の開発が可能になります。

具体的に、観光客に対しては小倉城竹あかりのイベントから、北九州市全体の観光地へ訪れてもらうことが期待され、リピーターだけでなく訪れた観光客の SNS を見た人や話を聞いた人など新規のインバウンドを生み出すことができます。

さらに、学生が中心にツアーを行うことで新たな異文化交流が生まれ、さらに観光業界で活躍する人材の育成や学んだ語学を生かす機会を生み出します。

また、このプランは特に韓国人観光客の誘致を目的としていますが、小倉城竹あかりのイベントや北九州市にある地元のカフェで竹炭パウダーを使用したスイーツを販売や竹材を使ったお土産を作ること、竹炭パウダーの循環を促進することができ、さらに商品を手にとる人々に竹害を知ってもらうきっかけとなり、より身近な問題として周知することができると考えます。

このことから、北九州市の SDGs の取り組みを知ってもらい世界に誇れる「観光首都北九州市」として知名度が上げられ、さらなる社会的効果と経済的効果が期待できます。

### 4. 事業化に向けたビジネスモデルについての具体的な紹介

・商品・サービス・ノウハウなどを分かりやすくご説明ください。

・「事業収入(提供金額)」「費用(事業コスト)」「告知手法」等を可能な限り記述してください。

"Kitakeshu Bamboo Cycle"プロジェクトでは、「小倉城竹あかり」で使用した竹を再利用し、① 竹材を使用したグッズを制作し、北九州市のお土産として販売、② 竹炭パウダーを使用した食品の開発・販売③ 小倉城竹あかりを含めたニュートロツアーを行うことで、北九州市の観光振興及び竹害の周知や竹の循環を生み出します。

#### ① 竹材を使用したグッズを制作し、北九州市のお土産として販売

「小倉城竹あかり」の竹を再利用し、竹ストロー、カトラリーセット、歯ブラシ、ノート、トイレトペーパーを制作し、北九州市のお土産として販売したいと考えています。

#### ② 竹炭パウダーを使用した食品の開発・販売

「小倉城竹あかり」の竹を再利用し、5 年前から竹害に関する活動を続けている地元の小倉商業高校が作った竹炭パウダーを使用したフードやドリンクを開発し、これらをイベント期間中に小倉周辺の店舗で販売します。現在ゼミ活動で小倉商業高校と連携し、実際に地元のカフェとコラボして竹炭パウダーを使った商品開発や竹害の周知活動を進めています。具体的な目標としては、北九州市内でコラボカフェの店舗を 20 店舗作ることを目指しま

す。コラボカフェの店舗が増えれば、小倉城竹あかりのイベント周辺でコラボ商品を集めたイベントを開催することで、昼から夜まで小倉城竹あかりを活性化させていきたいと考えています。

フード・ドリンク例

パン、ハンバーガー、ソフトクリーム、ドーナツ、ケーキ、クッキー、ラテ、コーヒー、クラフトコーラ、スムージー



写真1 劉ゼミがコラボ開発した竹炭チャコールラテ



写真2 劉ゼミがコラボ開発した竹炭チャコールモカ

### ③ 小倉城竹あかりを含めたニュートロツアー

まずは門司港レトロを観光し、次に竹炭パウダーを使ったコラボメニューを提供するカフェで一息つき、最後は小倉城竹あかりに参加してもらうというような学生が企画するツアーを巡ることで、北九州市のニュートロの魅力と竹害問題を周知にもつなげることができると考えています。

## 5. 事業化後の目標、継続可能性や将来のイメージなどについて

劉3年ゼミ生は竹炭パウダーを使った商品開発を地元のカフェと協力して行っています。これからも後輩へと活動を引き継いでいくことが可能です。引き続き竹炭商品のコラボ活動や竹害、竹を使ったグッズの広報活動を進めていくことで少しずつ大きな規模で地元の方々と協力し合うことができると考えています。

事業化後の目標としては、コラボカフェを増やすこと、さらにカフェのコラボメニューを定番化すること、竹を使った商品がお土産などで定番化することです。最終的には、「北九州＝竹」「北九州＝竹あかり」「北九州＝竹を使った商品」というイメージをもってもらうことで、竹炭パウダーや竹材消費サイクルを促進することが目標です。また、コラボするカフェが増えれば竹あかりイベント期間には店頭で竹灯籠を置き、街全体で竹あかりのイベントを行っているような雰囲気とニュートロの世界を作ることにより盛り上げていきたいです。この活動を竹害の課題解決と北九州市のインバウンド観光振興に繋げていきたいです。



図1 bamboo cycle のイメージ

### <記入上の注意>

- ・各項目の文字数の制限はありませんが、計画書全体で最大A4用紙片面3枚以内に収めてください。
- ・各項目の詳細説明のため概要図・グラフ・画像などの挿入や添付も可と致します。
- ・なお、解像度に画像が荒くなる場合がありますので、使用するフォントや写真等には留意下さい。